

「できる範囲で活躍を」根

野原さん介護心構え紹介 箱

男性や高齢者による介護が増える中、心構えなどを

知ってもらおうという講演会が2日、箱根町宮城野の町総合福祉センターさくら館で開かれた。「正々堂々がんばらない介護」(海と月社)などの著書がある野原すみれさん(横浜市青葉区)が「いろいろな人の手を借りて、できる範囲で活躍

しましょう」などと語り掛けた。

野原さんは、実母と義母を介護した経験から「介護に明け暮れていては疲れてしまう」と実感し、1983年に市民団体「虹の仲間」を同区で設立。アドバイザーとして活動している。講演会では、少子高齢化

により高齢の子どもが親を介護するケースが増えた現代は、「がんばりすぎない」ことがますます重要になると指摘。特に男性による介護の特徴について「長年働いて結果を出してきた経験やプライドがあり、『がんばっているのに報われな

い』と絶望してしまうケースが少なくない」と分析した。

そのため「二人で抱え込まず、役所や友人など周囲に頼む」「きょうだい間などでトラブルにならないよう、公平な有償介護を視野に入れるのも手」などと対応策を紹介した。



「笑顔で向き合うことがとにかく大事」と説く野原さん
(横浜市青葉区)箱根町総合保健福祉センターさくら館

妻と一緒に講演を聞いた柴原宏さん(80)は「箱根町在住」は「今は自分も妻も元気だから、介護のことは考えていなかった。今後のことも考えないと」とうなずいていた。

(草山 歩)